



みんなでマナティーに

会いに行く

Manatee
the
gentle giant

www.web-lue.com



2006年、第1回目：1月21日～29日までの9日間、
第2回目：1月28日～2月4日までの8日間の2週間、
本誌「WEB-LUE」の初めての企画となる
水中写真家・越智隆治、鍵井靖章と行く
「マナティー撮影スペシャルトリップ」を開催した。
集まったゲストはマナティーに興味ある
陽気な女性陣と
6歳の少年から72歳の紳士を含む老若男女。
目的地のフロリダ・クリスタルリバーでは、
お天気に恵まれ、
たくさんのマナティーが私たちを迎え入れてくれた。
今回はそのスペシャルトリップの報告レポート&
ゲストの思い出スナップです。

Photo&Text **Yasuaki Kagii**
Special thanks **INTO THE BLUE**

 **Information Link**  情報HPへジャンプ
http://www.web-lue.com/pdf_file/03/06_manatee.pdf



十人十色、 愛すべき マナティーたち

最初は気付かなかったけど、マナティーにも色々な性格がある。
甘えん坊、暴れん坊、のんびり屋さん。
彼らと一緒に居れば居るほど、その違いがわかり、楽しくなってくる。
身体を揺き揺きすることも慣れれば、彼らを気持ち良くさせるツボがわかってくる。
指先を使って「ゴシ、ゴシ!!」ゴシ、ゴシ!!」ゴシ、ゴシ!!」
そして、その「褒美として、マナティーは色々な表情やパフォーマンスを披露してくれる。



Manatee the gentle giant みんなでマナティーに会いに行く
www.web-lue.com

Web-lue 2006. Spring

Information Link http://www.web-lue.com/pdf_file/03/06_manatee.pdf click! 情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます 2



撮影*Greg Sweeney

第1週目グループのある1日！ みんなでマナティーと遊んだ！

朝7時に集合して、まだ夜明け前にボートで出発する。向かった先はスリーシスターズ。水路の脇にあるサンクチュアリにたくさんのマナティーが集まっていた。数は20頭くらいだろうか。透明度も高く、多くのマナティーはロープで仕切られたサンクチュアリの中を行ったり来たりしている。背が立つほどの浅瀬で、みんなはマナティーとのスキンシップを楽しむ。

みんなに体を掻き掻きされて、身を翻しているマナティーや人間の足にハグしているマナティーなど、それぞれ違ったキャラクターを持つマナティーが私たちを迎え入れてくれる。サンクチュアリから小さな子供のマナティーが小型のミサイルのように泳ぎだすと、それに気付いた誰かはそのマナティーとジャレ始める。

私が見ている限り、そのマナティーの子供をよくひとり占めしていたのはアキコさん。

「あっ、マナティーの子供が、サンクチュアリから出た！」と思って、追いかけてやると、そのマナティーの向かうその先で、「さぁ飛び込んでおいで！」と両手を広げて待っているのはアキコさんだった。ひとりのゲストに対して1頭のマナティーとはいかないが、みんなはそれぞれのお気に入りのマナティーと遊んでいる。

私も、みんなとマナティーの写真を撮ったり、サンクチュアリの中にカメラを向けて、人が誰も入っていない状態でのマナティーの撮影を続けた。

結局、ここに約5時間半も居座ってしまった。そんなに長い時間！？ と思うかもしれないが、実際、マナテ

イーに会い、遊んでいると、あっという間に時は過ぎてしまう。水温は22度と言われているが、体感温度はその数字どおりではない。フロリダの暖かい太陽が差し込み、ウェットスーツに身を包んでいると全然寒さを感じない。水着で入っている人もいるくらいだから(外人さんは僕たちと寒さに対する意識がかなり違う場合もあるが……)22度という水温だけ聞くと、とても寒いと思うかもしれないが、ダイビングではなく、水面にずっと居るということもあるが、誰ひとりとして、寒い～と言って上がってくる人はいなかった。(朝一で、飛び込むときは少し寒いかと思うが、水中の方が温かい。これほんと)。

前半のグループは最年少のトラくんが6歳で、最年長が山田さんの72歳。ふたりとも、十二分に楽しんでいたように思う。最初は怖がっていたトラくんも最後は全然恐れることなく、みんなの良きモデルとなってくれた。山田さんもみんなに「マナティーの子供の触り方がちょっと怪しい～」と突っ込まれていた。ボートに上がっていて少し休憩しては、また水に入ってマナティーとの時間を大切にしていた。元気な女性陣は、確か一度もボートに上がっていなかったと思う……(笑)。

12時にサイレンがなり響き、マナティーの数も少なくなってきたので、一度港にもどり、ランチを取ることにした。そして、午後のマナティースイムのために少し休憩をとった。

(トリップ日誌より抜粋)



撮影*Greg Sweeney



Manatee the gentle giant みんなでマナティに会いに行く
www.web-lue.com Web-lue 2006. Spring

 Information Link http://www.web-lue.com/pdf_file/03/06_manatee.pdf click! 情報HPへジャンプ



後半トリップのある1日。 可笑しなマナティーの行動のこと



今日も朝7時に集合する。今日は少し冷え込み、水面から蒸気が上がっている。とても幻想的な世界。カヌーに乗ったカレンが先頭をいき、その白い朝霧の中に消えていく。毎朝の日課となったスリーシスターズに向かう。もうすでに他の2艇のボートも到着している。すぐに用意してスノーケリングで青い泉に向かった。満潮で水の濁りは昨日と同じ、いや昨日よりひどい……。

それでも何か撮影できないかと、泉に沈んだ木に腰掛け、周囲の様子を覗く。水面から沸き立つ蒸気が朝日に照らされ、オレンジ色に光る。静かな朝、マスクを取り、そんな朝の光を眺めていると、あちらこちらで、「ブッフォー」というマナティーの呼吸音が聞こえる。それは泉の至るところから聞こえてくる。泉を囲むように繁る森の中で、聞こえるのはその呼吸音だけ。とても贅沢な朝に心寄せになる。

足元にやって来たマナティーを撮影することに決め、

浮上して水面で行う息使いを、蒸気と共に半水面で撮影してみる。水の濁りはひどく、マナティーはほんのシルエットにしか見えない……。それでも、なんとかマナティーの日常を写真にたくて度々撮影を試みる。透明度が悪かったために、最初は撮影意欲があまり湧かずにいたが、静寂の中に身を置いて、注意深く観察していると、撮影すべき素材は、そこじゅうに転がっていた。

その後、まるでカーチェイスをしているかのように乱暴に泳ぐ3頭のマナティーを見つける。良く見ると1頭のマナティーが一番大きなマナティーに抱きつき、反転しては下に潜り込もうとしている。なんだろうと思っずずっと観察していると、なんと交尾を迫ろうとしていたのだ。そしてみんなで観察&撮影を始めた。

交尾する個所を何度か間近で観察した。おちんちんは出ているが、うまく挿入できていない。メスの身体

はとても大きい、迫っているオスは成体？かなと思うほど小さい。擬似交尾？交尾練習？などと色々と考えながら撮影を続ける。3頭の群れのうち、もう1頭は、メスのマナティーの子供だった。その子マナティーは、もつれあう2頭の周りで付かず離れず泳いでいる。一度、もつれあう2頭が水路に出て行き、そこで観察は一旦終了したが、しばらくすると、また2頭はもつれあって青い泉に戻ってきた。子マナティーが水路に向かわず、居残っていたので、母マナティーが迎えにきたのだ。

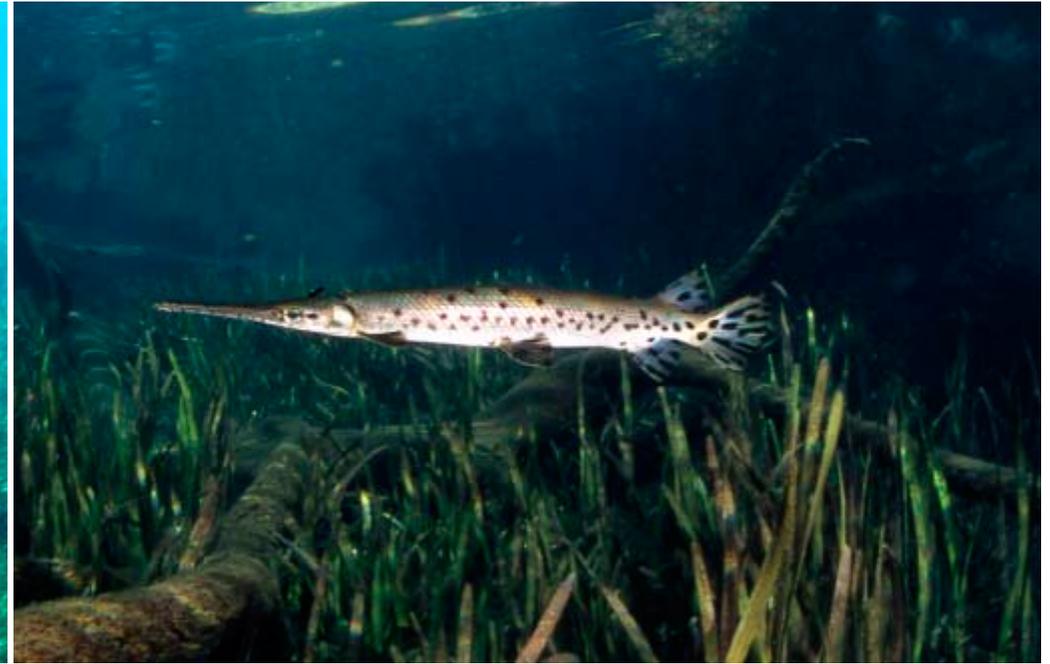
2~3時間の観察なかで、一度面白い光景も目撃した。子マナティーは母マナティーの脇にあるおっぱいを

吸い、同時に母マナティーはもう一頭のマナティーの交尾を受け入れる状態となっていた(僕は撮影できなかった……悲)。

正午に向かうに連れ、透明度も上がり、その一連の行動をみんなでビデオやカメラに収めることができた。そしてその3頭は水路から出て、サンクチャリに向かった。その時点でスイム&撮影を終え、ボートに戻った。ボート上からサンクチャリ内を眺めると、まだオスのマナティーは母マナティーに交尾を迫っていた。

(トリップ日誌より抜粋)





午前中、マナティースイム終えたある日の午後。お天気も良いので、午後はレインボーリバーにみんなで向かった。目的は清流でスノーケリング下りを楽しむ。川の上流までボートで運んでもらい、そこから川の流れに乗り、下流まで流される。水中には水草が草原のように生え、マナティの棲むエリアとはまた違った景観を楽しむことができる。木漏れ日が川面に射し込みとても美しい。川で見られる魚たちは、海で見えるものよりも地味で不細工だと、ゲストの女性が水面に顔を上げて笑っていた。それでも、頭が大きくて少しエ

ッチな形をしたカメや、大きく良く目立つスモールマウスバスが求愛？ 放精放卵？ しているシーンにも立ち会えることができた。そしてクライマックスは古代魚・ガーフィッシュ。くちばしのような吻部で、豹柄のようなドット模様がある。大きさは70cm~1m近くある。少し強面だが、かなり惹かれる姿だ。私はヘッドファーストで何度も潜水を繰り返し、撮影を試みた。元気な女性ゲスト陣もグレッグもバンバン素潜りしては近づいている。

所要時間は40分くらいの予定だったが、なんと2時

間近くもこの川で遊んでいた。みんな、これはこれで、とてもハマっていた。

また、別の午後に、ホモサッサ スプリングス ワイルドライフパークを見学した。保護されているマナティの現状を見たり、フラミンゴやフクロウ、ワシなどの鳥類、そしてカバやアリゲーターに会うこともできる。夕方は決まって、みんなで食事に出掛ける。チャイニーズやアメリカン、シーフードなどビールを飲みながら、ワイワイと楽しい時間を過ごす。

アフタースイムも楽しみが目白押し!!!
レインボーリバーでのスノーケリングや
ワイルドライフパーク見学



Manatee the gentle giant
www.web-lue.com みんなでマナティーに会いに行く
Web-lue 2006. Spring

Information Link http://www.web-lue.com/pdf_file/03/06_manatee.pdf 情報HPへジャンプ

マナティーな面々の ゲストボイス1

(原稿到着順)



「マナティーとの出会いは突然でした。水の中に入ると、奴は突然「ポーっ」と現れました。かなりの中性浮力の持ち主で、初めは見惚れてしまいました！多数の人にカキカキされても「ポカーン」と浮いています。触った感じはイルカの肌がスリッパ

のようなタイヤと例えるならマナティーは空気量が少なめなバスケットボールみたい。私のお気に入り箇所はつぶらな瞳！とゾウの足が押しつぶされたような形でいかにも鈍そうな大きなヒレです。

愛らしいマナティーに何度となくキス&頬擦りをしました、でも……彼らにとっては仲間がぶつかってきた程度にしかなじってもらえてない事でしょう……。あまり物事に感心がなさそうに見えるマナティー、来年はそんな彼らの興味を引けるようなパフォーマンスを考えてリベンジしたいです！！！」

森 真由美さん



茅場 秋季子さん



「3点セットって何ですか？」こんなアホな質問にも答えてくれる優しい方々がいる。そんな安心感があるマナティーツアーでした。

始まりは、昨年はじめ頃に行われた水中映像祭。私は水中映像祭の会場へ、オープン2時間前に誤って到着。案の定開いておらずベンチでひなたぼっこ状態。そして同じ様な状況で会場入口を一人でウロウロしている初老(?)の男性発見。その後、2人で見えるマナティー、来年はそんな彼らの興味を引けるようなパフォーマンスを考えてリベンジしたいです！！！」



それをみた時フロリダ行きを決めた。……とこんな感じで、時間を間違えなければ映像祭だけで帰っていたし、カタログももらう事はなかった。何かの「縁」でツアーに参加しているようです。(末永くよろしくお願いします)「縁」といえば、100頭相当のマナティーにあえなかったのは「縁」がなかったのでしょうか？来年、リベンジ!!

仕事をしていると1日に幾つもの作業を同時にこなさなくてはならない。単純に写真を撮って泳いで、カキカキする。この繰り返しの数日間はとっても贅沢に感じました。

加藤 穂波さん



紆余曲折をしながらやっと、たどり着いたクリスタルリバーで、マナティー達は私を待っていた！イルカのように元気いっぱいじゃなく、特に頭が良さそうじゃなく、見た目も、特にかわいいわけじゃないし……。ただただ、のんびり生きている生き物。泰然自若だけど、偉そうにしてないの。自分の居場所に「あるがまま」にいるだけ。私がマナティーに感じる事、そう、それは、ある種のアコガレです。「掻いて～掻いて～」と寄って



るマナティーに対して、宇宙のように広い自分の母性を感じてしまうのです。世界中の人がみんなマナティーに会えば、競争なんてなくなるはずだ～！

マナティーな面々の ゲストボイス2

(原稿到着順)

フロリダのクリスターリバーで、マナティーくんと遊んできました。(マナティーくんに遊ばれてきました…!?かな) 初日、まずはボートで20分位のポイント「スリーシスターズ」へ。本流にボートを止め、4~5メートル幅の水路を約30メートル泳いだ原生林の中にポイントがありました。メンバーの皆さんから少し遅れてポイントに入った途端、私に向かって真正面からマナティーくんがゆっくりと近づいて来るではあ



りませんか!? 急いで正面から写真を撮り、マナティーくんの邪魔をしてはいけないと身体を右に移動させ、水面から顔を出してみるとマナティーくんを囲むようにメンバーの人達の顔がありました(笑)

水底から水が湧き出しており、澄んだ清らかな水の中で、しかも私に向かって来てくれたマナティーくんと最初の出会いが、この時は一匹しかいませんでしたが、皆さんの真似をして恐々マナティーくんに触れてみたり、撫でてみたりして遊んでもらいました。

その後ポイントを変え、「キングスプリングス」へ移動しました。こちらには何十匹かのマナティーくんが居るようでしたが、透

明度が悪いポイントでマナティーくんによほど近づかないと仲良くなれず、何匹居るかも良く確認することが出来ませんでした。それから一週間、仲良く遊ぶしてくれるマナティーくんや、ふてぶてしくふんぞり返っているマナティーくん等々、沢山のマナティーくんと楽しく触れ合うことが出来ました。

しかし今回のツアーは、マナティーくんと触れ合いはもちろん、ご一緒した方々がそれぞれこだわりを持った素敵な人達であり、それらの皆さんとの触れ合いも貴重なものでした。皆さんお世話になりました。



山田 勇さん



「何をお話しているの?」マナティーが顔を寄せ合っている様子を見て、ふと思ってしまった。実は、今までマナティーが可愛いとは思っていなかった。初めて見た時も大して感動しなかった。初めて触った時さえも……。

しかし、一頭の幼いマナティーが甘えるような鳴声をあげながら私に体をすり寄せて来た時、私は恋に落ちた。いや母性本能ならぬ私の大好き本能が刺激されたのだろう。体をすり寄せて来るその仕草が、あまりに子犬に似ていてノックアウトされて

山崎 知英子さん



大きい怖いけど、小さいのは可愛かった(笑)。

野神 虎ノ介^{くん} (6歳)

今年で2年目なのですが、マナティーはやはり可愛かったです。何よりも存在そのものが癒してくれます。もしかするとイルカよりも癒してくれるのかもしれない。動きがゆっくりとしていて、追いかけてもマナティーのほうから近づいてきてくれるのがいいです。それに川なので深度も浅く流される心配もありませんでした。本当に

マナティーの大きな体と小さな瞳に癒された2週間でした。また、今回は孫の虎ノ介と一緒に参加していましたが、他のゲストのみなさんにも本当にお世話になりました。ありがとうございました。マナティーは本当に魅力的ですから、来年も行くかなという思いをさせてくれます。



野神 待子さん



マナティーな面々の
ゲストボイス3
(原稿到着順)

マナティーの仕草は確かに可愛いし、癒されました。しかしそれをモデルなしで映像記録するのは難しいものでした。マナティーの撮影を考えている人に簡単なアドバイスです。

1、風景絡みならフィッシュアイ、表情や仕草を撮るなら20mmクラスが最適

2、きれいな個体に集中する
3、巻き上げ注意→かなりチリが写りこみます。浅場ではなるべくフィンを使わず手でバランスを取った方がいいです
4、撮影3割、遊び7割のつもりではうー。癒される～！



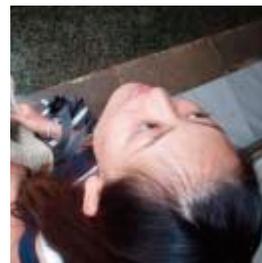
毛塚 潤さん



マナティーツアーに参加する前まではただ漠然と「コロコロ可愛い～」という印象だけでした。ですが、実際に野生のマナティーに触れたり、母乳を与えているところを観察したり、色々な表情を見ていくうちに、ただ可愛いというものではありませんでした。

とても愛しく思える存在であり、このマナティーが安心して生活

加藤 真季さん



お世話になりました！

今回、現地でお世話になったフロリダ在住のグレッグとカレン。グレッグは写真家でもあり、カレンと共著でマナティーの写真集も出版している。ふたりはマナティーだけではなく、鳥やカメなどにも精通しているナチュラリスト。お昼はゲストがマナティーと遊んでいるところを厚意で撮影してくれたり、夜は、みんなとモノポリーなどのゲームをするのが楽しみ。このマナティーツリップをサポートしてくれているみんなの人気者。



Manatees: The Gentle Giants
Photographs by Gregory Sweeney Text by Karen Kabele

グレッグ&カレン
Link <http://www.gregorysweeney.com>

君のことを、
忘れないうちには
あんなに会いたく
なりました



Special Trip information

越智隆治 & 鍵井靖章と行く 第2回 WEB-LUE マナティー 撮影スペシャルトリップ 2007!

今年(2006年)の好評により、来年の1下旬、もしくは2月上旬にマナティースペシャルトリップを開催します。越智、鍵井カメラマンがガイド役を務めるこのトリップの日程は、約8~9日間のパターンで2週続けて開催する予定です。このトリップの最大の魅力は、マナティーに会いに行くためのボートをグループでレンタルするため、マナティーと好きなだけ一緒に泳ぐことができます。人が少なくなる午後でもマナティースイムをすることができるので、毎日、もう思う存分マナティーを楽しむことができます。

また、レンタカーもしていますので、ワイルドパーク見学などの陸のレクリエーションや、レインボーリバーでのスノーケリングなども、気軽に楽しむことができます。お勧めのトリップです。興味のある方は、unitedoceans@web-lue.comまで、ご連絡下さい。

Information Link

昨年度のWEB-LUE・バックナンバー
「マナティーに会いたい」も
併せてご覧ください!

マナティーに会うための場所、時期、スタイル、ルール、それにオプションなどが明記されています。

Link http://www.web-lue.com/pdf_file/03/06_manatee.pdf

マナティー撮影
スペシャルトリップ日誌はこちら

Link <http://kagii.jp/trip/manatee>

Manatee the gentle giant
みんなでマナティーに会いに行く
www.web-lue.com

Web-lue 2006. Spring

Information Link <http://kagii.jp/trip/manatee> **click!** 情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます